

立教185年
活動方針

末代の道に向い、素直にひながたの道をたどろう

「おやさまのひながたとは、

ようほくを育て増やすこと」

・初席者 66名
・中席者280名

◇教祖御誕生祭4月18日執行◇

224回目の御誕生日をようほく信者が集い、お祝いさせて頂いた。

◇第104回婦人会総会4月19日開催◇

8名の代表が出席させて頂いた。

◇全教一斉ひのきしんデー4月29日終了◇

～家族ぐるみで参加しよう～をテーマに、全国各地で開催された。

◇年頭会議に変わる会議◇

2月12日・13日に予定していましたが、6月11日・12日に開催されることになりました。関係者の方はご出席下さい。



大教会のHP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会四月月次祭

大教会4月の月次祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、

「今月は、教祖がお生まれになられた大変おめでたい月に

当たりますので、御祝いと共に

にお許し頂いている今日のこの日に、ちばの理を頂戴し、

只今よりおつとめ奉仕者を中心に心を揃え、勇んで四月の

月次祭をつとめさせて頂きま

す。私共教会長を始めようほ

く一同は、世界にお見せ頂く

感染症はもとより、紛争によ

り多くの命が犠牲になるこの

大節を一日も早く速やかに収

めて頂けますよう、まずは身

近な所より、互いにたすけあ

い親神様の求めておられる、

にをいがけやおたすけに一歩

ずつ邁進させて頂く所存でござ

います。」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下

りのてをどりが勤められ、参

拝者は共に勇んでみかぐらう

たを唱和した。

神殿講話

山崎 薫代 准役員



神殿講話要旨

今年の2月9日の天理時報に、教祖20年祭の時の様子を書いた記事がありました。その記事の中に、北海道のある布教師は借家に戸も畳もなく粗末なむしろを掛け、藁を寝床にして布教に励んだ。身を切るような寒さの中、拾った小芋や魚の臓物を常食とする赤貧さながらの道中だったが、ご恩報じのお供えを欠かさな

た。これを読ませてもらった時に、網走の初代様の事だとすぐにわかりました。これを機に、網走大教会史を読ませてもらい、雪も氷も無い房州の冬しか経験したことのない初代様にとっては、吹きすさぶ肌切れる様な寒風は身にこたえるなどという生易しいものではなかったでしょうし、暖をとるにも薪を買うお金もあろうはずがなかったでしょうし、藁の上で空腹を抱え毛布一枚で途方もない寒さと戦い、ただただ教祖のひながたを胸に収まらずしては到底通りえない道中ではなかったのではないのでしょうか。こうした初代様はじめ、周りの熱心な布教のおかげで網走の教会の形が出来上がってきたのではないのでしょうか。

教会史を見ていると、昭和34年この教会の移転建築落成奉告祭が行われ、その参考資料の中に参拝のしおりがあり、その内容の一部に、本日はお参拝頂きましてありがとうございます。清流網走川に臨み向陽の山々を背にして、くつきりと白く浮かぶ御神殿、その神苑に一度足を踏み入れますと何かしらほのぼのとした明るさと、親の懐に抱かれている安心がひしひしと身に感じられるではありませんか。私達人間の親である親神様のお鎮まり下さる御神殿であり

た。これを読ませてもらった時に、網走の初代様の事だとすぐにわかりました。これを機に、網走大教会史を読ませてもらい、雪も氷も無い房州の冬しか経験したことのない初代様にとっては、吹きすさぶ肌切れる様な寒風は身にこたえるなどという生易しいものではなかったでしょうし、暖をとるにも薪を買うお金もあろうはずがなかったでしょうし、藁の上で空腹を抱え毛布一枚で途方もない寒さと戦い、ただただ教祖のひながたを胸に収まらずしては到底通りえない道中ではなかったのではないのでしょうか。こうした初代様はじめ、周りの熱心な布教のおかげで網走の教会の形が出来上がってきたのではないのでしょうか。



教祖誕生祭・婦人会第104回総会

4月18日、224回目の教祖御誕生祭が、中山大亮様を祭主に本部神殿・教祖殿で執行され、祭典終了後、「よろこびの大合唱」が本部中庭で開催

された。翌19日には、婦人会第104回総会が開催された。網走大教会からは8名が代表で参加させて頂いた。

ますと共に、また御教に慕い寄る子供達が一手一つに治まり、陽気ぐらしへと導かれる救け一条の道場であるからです。総ての悩みや煩悶を解決して下さるところが教会です。親神様は世界一列の人間を救済する為に、教祖様中山みきによって今より120数年前はじめられたのであります。天理教について詳しく知りたい方は、又いろいろの悩みのある方は、すぐ教会の門をたたいて下さい。その時あなたの運命の幸福への扉は開かれるのです。そして共々に陽気ぐらしへの道を歩まして頂くようではありませんか。とありました。

網走分教会創立50周年を記念して、今回の移転建築となったのであります。昭和34年4月より36年9月迄、3ヶ年の歳月を要し、総延べ人員役2万8千人の真実の汗を流したひのきしんと、信者方の尊い伏せ込みによって今日の完成をお見せ頂いたのであります。

○1階、2階、1部3階、併せて総建坪830坪、うち神殿のみ200坪、参拝所畳敷17枚、1000人以上の人がお参拝下

さることが出来ます。○御神殿にお祈り申し上げているお目標様を通して、私達人間を日夜ご守護下さいます親神天理王命のお鎮まり下さるおぢばを朝夕参拝させて頂くために、御神殿は南南西の方向に向かつております。○親神様と教祖様は「その理一つ」の理を思案させて頂いて、親神様と教祖様の間は全部壁で仕切ることなく、一部ふすまを以って自由に出入りする様になっております。と、教会の必要性が書かれているのです。今一度、それぞれのお預かりしている教会がその役割を果たされているのか？参拝に来られた人たちが喜んで帰られているのか？検討してみても良いのではないのでしょうか。お戻しの教会に所属していた方々は、また新たな教会へと行かねばならず、私自身も所属だった知床分教会もお戻しし、初代会長加藤キノエ様も出直し、教会そのものの形までも無くなり、寂しいのひとことです。知床初代会長は、網走大教会四代会長様からのひとことと、何もなところ

常呂分教会お運び

4月18日、本部教祖殿にて、常呂分教会が任命の事情運びを、大教会長付添いのもと、無事にお許しを頂いた。

その後、大教会長を芯に東礼拝場にて、かんろだいを拝し、お礼づとめをさせて頂き、教祖殿、祖霊殿を廻り、教祖霊様へお礼の参拝をさせて頂いた。
・奉告祭 5月15日 午前10時
○藤井広志会長 略歴
・昭和49年2月17日生まれ
・平成4年1月13日おさづけの理拝戴

全教一斉ひのきしんデー

4月29日、「家族ぐるみで参加しよう」をテーマに全国各地で開催された。今年提唱90周年を迎え、全ようばくに案内を届け、賑やかにつとめさせて頂きたかったが、コロナ禍ということもあり、各教会、支部単位での開催ではあったが、大勢の参加者がひのきしんで汗を流した。



・平成11年10月9日教人登録
・平成11年10月20日教会長資格検定合格
・平成29年4月18日日常豊分教会長拝命
・令和3年3月27日日常豊分教会長辞任

札幌読書会来所

4年前、札幌市中央区が開催する、読書会のメンバーが、天理教のお話を聞かせて欲しいと陽光分教会に十数名が来会された。いつか天理にも行ってみたいと話されていたが、4年が経ち、コロナでずつと迷っていたが、今行けるうちにらせて頂きたいと電話があり、今回7名の方が初めておぢばにお帰り頂いた。基礎講座を受講して頂き、その後天理参考館を見学、本部神殿を案内させて頂き、朝夕のおつとめにも参拝して頂いた。



から、よく決心して教会設立を成し遂げ、信者様宅を周るのに53歳にして免許を取り、一生懸命おたすけに周られた姿はいつまでも私の脳裏に焼き付いています。その初代会長加藤キノエ様によって、私は14歳で命の危ないところを助けて頂き、この歳になるまで大病することもなく、体の不自由を感じることもなく、生かされている事に感謝するのみです。婦人会の今年の成人目標はこれまでと同様に「ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう」また、活動方針には「元をたずね ご恩報じの日々を」と掲げています。婦人会長様は「元をたずね」に言及されて私たちはお道を信仰しています。そのお道を信仰するという事は、どういうことでしょうか。親神様は立教の時に「このたび、世界一列をたすけるために天下った」と、宣言されています。ですから、お道を信仰する目的は世界一列を助ける事であり、陽気ぐらし世界の建設であるのです。教会

で生まれ育った方たちは別として、おおかたの人は身上事情をみせられてこの道に引き寄せられているのではないのでしょうか。そして、ご守護を頂き「助かりたい」から「助きたい」の心に切り替えるのです。その時からお道の信仰者となり、助けられた事へのご恩報じの道が始まるのです。おたすけも様々で、身上、事情のおたすけ、おつとめをつとめる事、教会の御用もおたすけ、育てる御用もおたすけになるのではないのでしょうか。お道を通り、おたすけ活動をする中で「なぜ、このような事が」と、思わぬことが起こって、何度も身上、事情をお見せ頂くことがあります。それは親神様がそのことを通して、なお一層おたすけに専念する様にと叱咤激励されているからだと思うのです。にちくによふほくにてわていりする どこがあしきとさらにおもうな (三一131) このきいもたんく月日でありして つくりあげたらくにのほしらや (七一17) 親神様は実のようばくにし

ようと思われる者には、始終お手入れを下さいます。将来は、立派な教会の柱に育てるために仕込んで下さっているのです。人には必ず良い所があります。周りの人の良い所に目を向けて、口に出して伝えることで、自分にとっても相手にとつても、人間関係や物事が必ず良い方向に向かいます。周りの人の良い所を探して、褒めてみましょう。真柱様の年頭挨拶の中で、来年教祖様140年祭を目指す三年千日の動きに入っていくとして、感染症がこの先どのようになるか予想もつかないとして、安心して御用が出来ても出来なくても、時間は過ぎていくので、今出来ることをしっかりと進めさせて頂きましよう」と、述べておられます。この言葉は、大教会長様も網走月報の中でも述べられておられます。今、生かされている喜び、十全のご守護に感謝して勇んで今年も御恩報じに努めさせて頂きたいと思っております。

昇殿参拝

4月26日、暖かな気候の中、5名が昇殿参拝させて頂いた。代表者による昇殿参拝は5月までとなっております。



人の御守護	
初席	中席
4月	
0席	3席
累計	
5席	19席

動 静

◎誕生
▼直轄所属・今富貴夫、ももえ夫妻に4月10日、長男誕生。「遥貴(はるき)」と命名された。

◎年 祭

▼實東分教会初代会長・三幣かくの靈様の50年祭は4月3日、實東分教会にて三幣輝子・實東分教会会長祭主のもと執行された。

4月人のご守護

- 中席者 (1名)
徳元 山本裕子
- おさづけの理拝戴者(1名)
誠網 堀川 恵美子
- 修養科修了者 (1名)
誠網 堀川 恵美子
- 修養科志願者 (2名)
誠網 田中 宏子
- をびや許し願 (1名)
矢代 順子

育英会寄付者

- 三幣健志様 (長男小学校入学)
- 瀬川定自様 (長女高校生入学)
- 三幣正志様 (次女入園)
- 實東分教会 (初代会長50年祭)
- 青山勇太朗様 (長男中学校入学)

合格おめでとう

- 京都工芸繊維大学
直轄 佐々木 快音

大教会4月の動き

- 1日 会長、教区主事会議 (2日まで)。役員・准役員会議
- 3日 縦の伝道日
- 6日 役員会
- 9日 支部役員会会場
- 10日 役員会
- 12日 月次祭。連絡会。役員会
- 16日 会長、おぢばがえり
- 17日 五季御礼。縦の伝道日
- 18日 教祖誕生祭遙拝。会長、常呂分教会事情運び付添い
- 19日 会長、直轄信者まわり(21日まで)
- 23日 会長、おぢばがえり。詰所23会
- 24日 会長、本部神殿奉仕つとめる。縦の伝道日
- 25日 会長、本部災救隊会議出席。細木善信役員、本部神殿奉仕つとめる
- 26日 本部月次祭遙拝。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる
- 27日 会長、かなめ会出席
- 29日 全教一斉ひのきしんデー
- 30日 みそか会

教会名	初席	中席	ようほく	三日講	修卒	教人	婦参者	参者	教会名	初席	中席	ようほく	三日講	修卒	教人	婦参者	参者	詰所																
																		初席	中席	ようほく	三日講	修卒	教人	婦参者	参者									
直轄	1	4					8	46	誠央	1									初席	5	中席	3	ようほく	19	三日講	1	修卒	1	教人	1	婦参者	71	参者	199
美幌								0	常道										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
女満別							3	14	徳道	2									初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
斜里								0	満金										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
釧路								0	網安										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
武厚								0	オホーツク										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
常呂							7	8	網徳										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
旭網							1	3	栗沢										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
御料							1	4	徳盛	3									初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
東藻								0	網新	1									初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
陽光							13	17	網葉										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
呼人		1					2	6	網誠										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
誠陽							1	4	網誠	3									初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
網栄								0	網次										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	
實東	2	6					7	10	網昇										初席	5	中席	3	ようほく	19	三日講	1	修卒	1	教人	1	婦参者	71	参者	199
宗稚							1	4	網勇										初席		中席		ようほく		三日講		修卒		教人		婦参者		参者	

(参拝者数 約70人)					
神職講話	賛者	指図方	扨者	祭主	祭員
山崎 眞壁 桐谷 菅原 栗林 大教会長	清水 三幣 光敦 知幸 春広 志教	厚平	明宏	徳正	大教会長
胡三 味琴 弓線	小す 太拍 ちやん りが 鼓ね 鼓木 ほん	地 方	てをどり		祭典
山栗丸 崎山の 眞聖子	三結藤 幣城山 重厚志 網谷田 善忠善 網谷田 厚善和 網谷田 善平信	瀬大栗 川山林 定雅徳 自入正	藤栗大 山林一 道子入 徳正	丸新大 川教会 長正徳 入徳	座りづとめ
大細藤 山木山 泰朱眞 子美理	伊吉桐 東村谷 善光善 徳正広 善信宏	田小在 中針原 敏道 繁文彌	村澤新 井田清 井田川 裕知信 子喜善 子喜明	清遠山 水山田 眞重眞 幣壁幣 光正正 徳教志	前 半
三新栗 幣川林 千有徳 子美	永増三 井田澤 裕春定 幸一雄 自二治	清栗新 水林川 知徳正 幸正美	菅瀬川 原幣田 眞祐代 弓子入	眞幣幣 光正正 徳教志	後 半